

平成25年9月19日

ALIC/USMEF 食肉需給情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、米国食肉輸出連合会（USMEF）と食肉需給情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本、米国の食肉の需給状況等について意見交換を行う場として両国において、原則として毎年度交互に開催しており、今回で通算28回目となります。

1 日 時：平成25年9月19日(木) 10時～11時30分

2 場 所：ALIC会議室

3 参加者

ALIC 佐藤理事長、長総括理事、強谷理事、高橋総括調整役、岡田畜産需給部長ほか

USMEF フィリップ・M・セング 会長  
サッド・ライブリー 首席副会長  
ジョエル・ハガード 主席副会長  
エリン・ボロアー エコノミスト  
山庄司岳道 シニアマーケティング・ディレクター  
原田 晋 シニア・ディレクター

4 会議内容

佐藤理事長とセング会長の挨拶の後、ALICから日本の食肉需給について、USMEFから米国の食肉需給について説明し、意見交換を行った。

<ALIC：日本の食肉需給の説明概要>

日本の直近の牛肉及び豚肉の消費動向、今後の生産予測、東日本大震災が畜産に与えた影響等について説明。

## <USMEF：米国の食肉需給の説明概要>

### 牛肉

- ・ 牛肉生産量は、主要生産州の肉牛飼養頭数が減少している中で、1頭当たりの枝肉重量は増加していることから、全体としては、若干の減少見込み。
- ・ 国内の牛肉消費量は、牛肉供給量の減少に伴う価格高や、牛肉よりも安価な鶏肉や豚肉に需要がシフトしていることから、減少見込み。
- ・ 生体牛の先物取引価格は、市場が牛肉価格高の影響により牛肉需要の減少を見込んでいることから、9月は弱含みで推移。

### 豚肉

- ・ 2013年の豚肉の生産量は、今後、飼料穀物価格の下落が見込まれることや、豚肉価格が堅調に推移していることから、対前年比0.6%増とわずかに増加する見込み。
- ・ ただし、今年、アイオワ州を中心に発生した豚流行性下痢ウイルス（PEDV）の影響により、子豚頭数が減少していることから、2013年第4四半期の生産見通しは下方修正の可能性あり。
- ・ 枝肉重量は、今年の夏場が好天に恵まれ、例年より気温が上昇したことで減少したが、今後、飼料穀物価格の下落が見込まれることで、飼料利用が高まるとの予測から、増加に転じる可能性あり。

### 食肉輸出

- ・ 2013年の牛肉輸出量は、日本向けを中心に増加しているものの、牛肉供給量の減少により対前年比2パーセント減の110万トンと予測。
- ・ 豚肉は、ロシアや中国の輸入停止措置や日本向け輸出量が伸び悩んでいることから、対前年比5パーセント減の230万トンと予想。

(問い合わせ先)

担当者：調査情報部 横田、山神

電話番号：03-3583-9804、9532